

環境ビジョン2050実現に向けて ～長野県内拠点の100%再生可能エネルギー化～

2021年 3月 26日

セイコーエプソン株式会社
代表取締役社長 CEO
小川 恭範

地球を友に

2050年に「カーボンマイナス」と 「地下資源*1消費ゼロ」を達成し、 持続可能でこころ豊かな社会を実現する

*1 原油、金属などの枯渇性資源

達成目標

- 2030年：1.5°Cシナリオ*2に沿った総排出量削減
- 2050年：「カーボンマイナス」、「地下資源*1消費ゼロ」

アクション

- 商品・サービスやサプライチェーンにおける環境負荷の低減
- オープンで独創的なイノベーションによる循環型経済の牽引と産業構造の革新
- 国際的な環境保全活動への貢献

*1 原油、金属などの枯渇性資源

*2 SBTイニシアチブ(Science Based Targets initiative)のクライテリアに基づく科学的な知見と整合した温室効果ガスの削減目標

1

脱炭素

- 再生可能エネルギー活用
- 設備の省エネ
- 温室効果ガス除去
- サプライヤーエンゲージメント
- 脱炭素ロジスティクス

2

資源循環

- 資源の有効活用:
 - ・小型軽量化/再生材活用
- 生産ロス極小化
- 商品の長期使用:
 - ・リファービッシュ/リユース

3

お客様のもとでの 環境負荷低減

- 低消費電力化
- 長寿命化
- 消耗品・交換部品の削減
- 印刷のデジタル化
- 生産装置の小型化

4

環境技術開発

- ドライファイバー
テクノロジー応用
- 天然由来素材(脱プラ)
- 原料リサイクル(金属、紙)

環境投資・費用

- **2030年までの10年間で1,000億円の費用を投入** **1** **2** **4**
 - ・ サプライチェーンにおけるGHG排出量*1を200万t以上削減
 - ・ 2023年には、エプソングループ全体の使用電力*2の100%を、再生可能エネルギー化
(2020年4月 欧州販売拠点達成 / 2022年3月 日本国内達成予定)*2
- **環境負荷低減に貢献する商品・サービスの開発に経営資源を集中** **3**

*1 GHGスコープ1、2、3排出量 *2 一部、販売拠点などの賃借物件は除く

2021年 4月

長野県内の全ての拠点*の電力を再生可能エネルギー化



信州Greenでんき を採用

2021年度

日本国内の全ての拠点*の電力を再生可能エネルギー化

2023年

全世界のエプソングループ全ての拠点*の電力を再生可能エネルギー化

* 一部、販売拠点などの賃借物件は除く

EPSON
EXCEED YOUR VISION